

## 誰もが持つ『ジェンダーバイアス (性別による無意識の思い込み)』

わこうプラン推進委員  
土田 那津子

突然ですがクイズです。お父さんと息子が交通事故で重体、すぐさま病院へ運ばれました。敏腕外科医が男の子を見て一言「この子は私の息子だ。執刀できない」。この外科医と男の子の関係は？正解はお母さんと息子。このクイズに引っかけた私は、あらためて自分が「外科医＝男性」という無意識のジェンダーバイアスを持っていることに気づきました。

「男は仕事、女は家庭」など性別役割意識をはじめとする根強いジェンダーバイアスは、女性活躍を阻む要因とされています。女性は育児をするからという理由で育成や能力開発の機会が得にくく、結果的に昇進に結び付かないとい

うケースはよく知られています。また最近では、男性が本当は育児や介護で時短勤務制度や休職を取りたいが、職場に言い出せないと悩むケースが増えていると言われています。本人の希望や能力に関わらず、性別を理由に長時間労働を強いたり、キャリア開発を閉ざしたりする社会に希望を見出すことができるでしょうか？

一人ひとりが個性を活かし、輝ける社会をつくるための第一歩は、自分が持つ無意識のジェンダーバイアスに気づき、みんなで取り除いていくことだと、冒頭の問題をきっかけに思いました。